



2020年、新型コロナウイルスの脅威に攪乱された格好の前半の締めくくりは、例年より10日以上も遅い梅雨明けだった。関東地方で8月1日である。朝晩の通勤電車でも、恨めしい雨模様の中、窓は開けたし、雨は降り込むし、マスク姿で蒸れるし、なかなか究極の選択が迫られる事態だった。

これが梅雨明けをしたらしたで、こんどは猛暑である。炎天下、昼下がりには都内でも歩こうものなら、マスクの中で息苦しい思いをしたのは筆者ばかりではなからう。

ふと思ったのは、子供時代の夏である。暑いといってもせいぜい30℃といったところだったはずだが、最近は忽ち35℃を突破し、水銀柱は限りなく40℃に近づいていく感がある。

そして大きな災害をもたらした大雨である。これから台風がやってくる季節になるが、年々台風の方も強力になってきているようで、こんなに毎年、台風による大きな被害が報

道されるようになったのはそんなに遠い昔ではなかったと思う。

地球温暖化による気候変動といえ、ばそうなのだろうが、海洋汚染も含めて、コンビニやスーパーのビニール袋の有料化程度でどうなるものでもないように思うのは筆者だけだろうか。

環境問題もそうだが、今回の新型コロナウイルスも含めて、人類にとって大きな驚異が迫っている状況にも関わらず、世界の首脳たちは長期政権の下、それぞれの覇権やら利益やらを掲げ、殊更に対抗心を燃やして民意や世論を煽っている傾向も見え隠れする。

小国の「螻蛄の鎌」にヒステリックにいちいち反応して、大国が大騒ぎをしないだろうか。「窮鼠猫を噛む」ということがあるやもしれないが、例えそうであっても、大国は大国らしく、地球人類の脅威に對して雄々しく立ち上がり、その先進技術や科学力を駆使して世界の脅威に立ち向かってこそその大国なのではないのだろうか。

もちろん下手をすれば小国が放った核兵器が世界人類を脅かす可能性

もある。その時、自国を守るとか、同盟国を守るといふ視点ではなく、地球という星に棲む人類を守るといふ大義名分を持って対処することができないものだろうかと思う。

「今、そんなものを発射することは、地球人類にとって正しくない」そうした視点からの発言や行動が取れば、世界はもう少しうまくいくのではないだろうか。

世界の大国たちが、より大きな視野と世界観を持ち、世界中の人類が平和で豊かに暮らせるように考える。その考えのもと、訳のわからぬ小国の暴挙や疫病、環境破壊、災害などと対峙して行動できるようになれば、もう少し世界はましになるように思えるのだ。

新型コロナウイルスのせいで、この暑い最中にマスクをして青息吐息で歩きながら、ふとそんなことを考えた。

猛暑の中、子供たちの夏休みも短縮され、多くの人びとがマスク姿で仕事に出かけなければならぬ。どうか御身大切にお過ごしください。

(溪)

月刊
公論

9月号 第53巻9号

令和2年9月1日発行 毎月20日発売
本体価格1,000円(税別) 送料87円

発行人 大中 吉一 編集人 林 溪清
発行所 株式会社財界通信社
〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町10-12 ボナフラワービル
TEL.03-5379-5611(代) FAX.03-5379-5616
印刷所 株式会社廣濟堂
取次店 日本出版販売/楽天ブックスネットワーク

- 直接ご購入をご希望の方は、本社までお問い合わせ下さい。
- 万一、乱丁、落丁などの不良品がございましたら、お取り替えいたします。